

共同生活援助事業所 古里の家

事業の総括

ノーマライゼーションの理念に基づき、自立生活を目指す障害者が地域社会の一員として共同生活を営むため、健康管理をはじめ、安定した日常生活を心豊かに明るく過ごすことが出来るよう下記の目標を設定し、目標達成に努めた。

<目標>

- (1) 入所者の自立に向けた日常生活に必要な援助を行い、地域住民の一員として快適な生活が出来るよう支援する。
- (2) 入所者の満足度を高めることができるように運営体制の充実に努める。
- (3) 利用者が安心して住める住宅の維持管理と、環境の整備充実に努める。
- (4) 災害時の利用者の生命と安全を守るため、その対策に努める。
- (5) 入所者の尊厳を旨とし、業務上知り得た個人情報などは厳重に管理した。

事業の概要

- (1) 施設利用状況（利用定員 5人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	備考
利用契約者数	5人	5	5	5	5	4	4	4	4	3	3	3		
(区分2)	-	-	-	7日	31	30	30	30	29	28	29	31	245	
(区分3)	21日	18	23	20	21	21	21	23	19	20	19	23	249	
(非該当)	30日	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366	
日数合計	81日	80	80	89	114	111	111	113	108	79	77	87	1130	

- (2) 平成 25 年度活動状況

実施年月日	活動内容	参加者
平成 25 年 4 月 26 日	G H 懇談会	利用者 4 名、世話人、職員
6 月 21 日	G H 懇談会	利用者 3 名、世話人、職員
9 月 9 日	G H 懇談会	利用者 2 名、世話人、職員
10 月 27 日	涼風祭	利用者 4 名
12 月 4 日	G H 懇談会	利用者 2 名、世話人、職員
3 月 26 日	G H 懇談会	利用者 2 名、世話人、職員

地域の行事に参加するよう支援した。

入所者の趣味、教養、娯楽等の活動が出来るよう設備の充実を図った。

入所者一人ひとりの健康状態や嗜好を把握したプログラムやカロリー食の配食サービスを利用し健康管理に努めた。

(3) 利用者の健康管理

年月	症状と対応	対応者	支援先
平成 25 年 12 月	ADL 低下に伴う通院	職員	土佐市民病院
平成 26 年 1 月	ADL 低下に伴う再検査	職員	土佐市民病院
2 月	風邪症状	職員	伊与木クリニック
毎月 1 回	定期健診通院	家族	土佐市民病院

- ・ 服薬管理
- ・ 消毒の実施

利用者や世話人からの要望や改善点などを把握するため定期的に懇談会を実施し、要望など対策や支援を行った。

- ・ 各室の鍵の修繕
- ・ 外出時やイベントなどの申し送りの徹底
- ・ G H 前の道路の安全対策
- ・ キッチン、トイレ水漏れ修理
- ・ 浄化槽の保守点検
- ・ 自転車置き場新設

(4) 施設運営状況

職員の配置状況

職種	管理者	サービス 管理責任者	世話人	生活支援員	合計
	職員配置数	1 (1)	1	2	1 (1)

職員の勤務体系

管理者 1 名 (カトレア施設長兼務 8:30~17:30)
生活支援員 1 名 (カトレア生活支援員兼務 8:30~17:30)
世話人 2 名 16:00 から翌 9:00 (月~木)

バックアップ事業所との連携

- ・ 毎日朝・夕 (ホーム日誌、食事メニュー、鍵、連絡事項と申し送り等の確認)
- ・ 生活用品の発注、受取
- ・ 毎月食費会計報告と精算

利用者が地域において安全で安心して生活ができるよう、支援計画を作成し、本人やその家族に理解をいただいたうえで実施した。

防災対策

- ・4月、6月、9月、26年3月に火災想定訓練を行った。12月には、地震想定訓練を行い、南海大震災に備えた。
- ・消火器や火災報知機などの適正配置、検査の確認を行った。
- ・避難防災設備を備え付けた。

(6) 今後の課題

定員5名の中、入居者が3名となっており、1日でも早く満床にするために市町村や支援学校などに売り込みに行く必要がある。

週末は世話人が不在のため、入居者の週末の支援体制を今後どうするか検討していく。

地震や津波などに対する防災対策（マニュアルの整備と避難訓練の実施）。